

地方創生関係交付金事業一次評価への意見に対する回答

資料 1

No.	事業名	委員名	委員意見	回答
1		外崎委員	<p>・お試し居住できるのが2か所とのことだが、場所が限定的であり、少ないのではないかと。今後、アクティブシニアのみならず全世代をターゲットとしていくのであれば、多様なニーズに応えられるよう、受入拠点は広範囲に多くある方が人を呼び込みやすいのではないかと。</p> <p>・アクティブシニアの中でも、例えば医療分野などの専門職を呼び込むことは視野に入れているのか。</p>	<p>・KPIにカウントしている移住者は、全員が2か所のお試し居住地に移住しているわけではなく、空き家・空き部屋など含め市内各所に移住している。今後、ターゲットを全世代とするのであれば、お試し居住地の受入拠点数を広範囲に増やしていくことが必要ということを担当部署に伝えます。また、移住に際しては、市街地、郊外の両方のニーズがあることから、両方に対応できるよう取組を進めていきます。</p> <p>・特定の職種に的を絞って移住施策を進めているということではありませんが、移住検討者や移住者がスキルを持っている場合には、それぞれにあった働き先や働き方を提案しています。</p>
2		斎藤委員	<p>・審議会での発言もありましたが、専門職の移住を考えるのは良いと考える。</p> <p>・中高年の移住相談者が増加傾向にあるという実績をぜひ活かし、移住に結び付けてほしい。相談者が移住に踏み切れないところを分析し、それをクリアできるようにはどうしたらいいか解決することが大事だと思う。</p>	<p>・現状では、特定の職種に的を絞った移住施策を行っておりませんが、移住検討者や移住者がスキルを持っている場合に、それぞれにあった働き先や働き方を引き続き提案していくほか、お試しハウス・お試し居住の利用者のうち、希望者には仕事体験をしていただくような事業も検討してまいります。</p> <p>・また中高年の移住希望者が移住に踏み切れない理由としては、仕事や住宅、家族などのことで、若年世代と比較して整理・相談に時間を要するケースが多いことが考えられますが、相談があった方とは定期的に連絡を取り合うことでニーズなど声を聴き、移住につながるよう努めてまいります。</p>
3	1.弘前版生涯活躍のまち推進事業	外崎委員	<p>・一定数の実績があり有効であったと考えられる。現状一部の法人に委託となっているため、今後様々な法人が協力を申し出てくれるように働きかけていってほしい。また市外の人を呼び込むだけでなく、市内にいる高齢者の方々にも元気な状態を維持できている方たちにも商品券をプレゼントするなどの取組などを考えてほしい。市外の人にのみ手厚く支援を提供する事は不公平に感じる。</p>	<p>・現在当事業の実施主体は2法人となっております。これは事業開始当初、市内で高齢福祉事業を行っている社会福祉法人23社に情報提供を行ったうえで募集した結果、2法人の申込しかなかったものでありますが、事業実施の際には、NPO法人やボランティア団体等にも参画していただいております。また、今年度で本計画は終了しますが、今後新たな計画を策定することも検討しており、必要に応じて新たな事業主体の参画も考えられますので、いただいたご意見や関係機関等の意見も伺いながら検討していきます。</p> <p>・本事業は、アクティブシニアの移住を支援するものではありませんが、移住後に住民等と交流する機会をつくることで、地域課題の解決や地域の活性化といった相乗効果も期待するものであります。今後、新たな計画の検討にあたっては、さらなる地域課題や市民ニーズの解決に資する取組を盛り込んでいきたいと考えております。</p>
4		大西委員	<p>・人口減少はさらに進んでいく。『弘前版』生涯活躍のまち』となるために弘前に沿うようカスタマイズ(現地適応)した事業になっているのか。地域貢献モデル構築、健康増進モデル構築は地域内のことなので、参加しやすい仕組み作りが進んでいるのだと思われるが、移住については、事業企画者が移住者の弘前での生活をイメージできているのか。もしくは、お試し居住を受け入れる用意は万全であるとして、ニーズやターゲットとマッチしているのか。</p>	<p>・弘前版生涯活躍のまち構想策定の際に、関係主体に対するヒアリングや首都圏在住者に対するアンケート調査等を行い、地域課題を整理して事業に取り組んでおります。</p> <p>・両法人に設置している地域コーディネーターには、移住やお試し居住利用についての相談業務を行っていただいております。移住希望者が弘前の暮らしで期待していることなど、生の声を聴く機会もあります。お試し居住を利用する方には、利用期間内に行いたいことを事前に確認し、スケジュールに組み込んだりアテンドするなど、オーダーメイド型のプログラムを作成して、より弘前での暮らしをイメージしていただけるよう取り組んでおります。</p>
5	2.都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業	森委員	<p>・「就農体験者の受け入れ」に関しては補助労働力の確保にとどまっておらず、地方創生に効果があったとは言えないが、「ローカルベンチャー育成支援」では、外部人材による新たなビジネスモデルが創出されており、地域における新しい芽が育ってきており、地域に刺激を与えつつあると考えるので、事業全体としての効果はあったと考えている。</p>	<p>・いただいたご意見も踏まえ、今後の事業や各事業の自治体支援に取り組んでいきます。</p>
6		斎藤委員	<p>・就農体験を長期及び移住等につながる見込みがある者を掘り起こして、研修を実施したことは良いと思う。技術習得や作業練度の向上が可能になったということは、次のステップアップは移住して独立に結び付くようにハード面の支援が必要。</p>	

No.	事業名	委員名	委員意見	回答	
6	2.都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業	淀野委員	・費用対効果が見えにくい割に、予算が高額のため、「有効とはいえない」と評価したもの。	<p>・「就農体験者受入事業」については、決算額15,878,439円に対し、KPI「就農体験受入者数」のR1実績は、目標80人に対し66人に留まりましたが、受入先農業法人からは「作業姿勢がまじめであることから、継続して受入を行い、雇用についても積極的に行っていきたい」という肯定的な意見もあります。</p> <p>・また、「ローカルベンチャー育成事業」については、決算額44,248,090円に対し、KPI「ローカルベンチャーによる新規事業創業者数」のR1実績は、目標3人に対し0人に留まりました。これは、ローカルベンチャーの担い手となる地域おこし協力隊の着任時期が一定ではないためですが、現在着任している8名については、それぞれ3年の任期終了にあわせて新規事業創業に向けた取組が行われています。</p> <p>・各事業については、今年度が計画期間の最終年度となりますが、いただいたご意見を真摯に受け止め、見直しできる箇所は見直しを実施し、次年度以降の自動化に向けて今年度の取組を進めていきます。</p>	
7		外崎委員	<p>・6000万円と高額な予算を配分している割には実績値は低く、②のローカルベンチャーも今後の可能性(将来への投資)という観点では評価はできるが、現状での実績が低く有効と考えにくい。①に関しても移住実績がなく受け入れ人数66人に対して1500万円の予算は「お金をかけすぎ」と言わざるを得ない。③-1、③-2で一定数の実績があるため、ある程度の効果はあった部分もあるが①と②も含めて全体として考えると有効とは言えない。</p> <p>※また以前の審議会でも予算が高いとの指摘があったものの、具体的な内訳の確認や委託費が適正かどうかのチェックについて今回の審議で資料提示がないため、有効と判断する要素が足りないと判断した。</p>		
9		大西委員	<p>・いずれも必要な事業であると思うが、めぼしい効果が見当たらず、今後の方向性についても具体的な方策が示されているとは言えないと思う。</p> <p>・②ローカルベンチャー育成支援については、スピード感をもって事業化を進めていってもよいのではないかと思う。大きなお金が動いているので、成果を期待する。</p>		
10	3.地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業	大西委員	<p>・「学生向け人材育成事業」の「弘前ポスター展」について、内容は良い事業だと思うが、決算額が600万円とのこと、費用がかかりすぎではないか。市内2か所でポスターを展示しSNS等で情報発信したとのことだが、それほどの予算規模なのであればもっとPRの仕方や内容について工夫できるのではないか。</p>	<p>・プロポーザル方式で業者を選定しており、トップクリエイターの謝金・旅費・機材費などが決算額の内訳であると思いますが、いただいたご意見を担当部署に伝えます。</p>	
11		森委員	<p>・クリエイティブコンテンツ事業は、地域にとどまらず、世界を巻き込んだ取り組みに発展しており、大きく効果があったといえる。一方で、そのほかの事業の多くが、発信にとどまっており、発信した後の展開が考えられていないという点では事業としては不十分であったと考えられる。弘前の魅力を認知してもらった後に、弘前に足を運んでもらったり、地域産品を購入してもらって初めて成果があったと考えるので、弘前に来てもらえる取り組みや地域産品を購入してもらうような仕掛けも組み合わせると事業効果がもっと出てくると考えられる。</p>		<p>・本事業により開発された津軽塗商品については、現在、国の指定産地組合である青森県漆器協同組合連合会のホームページをリニューアル中であり、購入できる仕組みの構築も検討しています。</p> <p>・佐賀県嬉野市と共同開発したアップルティーや、大鰐町・田舎館村と共同開発したスイーツについても、民間事業者により通年販売されていますが、今後も、イベント時の販売のほか、継続的な販売・購入につながるよう情報発信に努めるとともに、本事業により作り上げた新たなコンテンツ等をしっかりと活用できるように取り組んでいきます。</p>
12		成田委員	<p>・津軽塗デザインプロジェクトについて、東京インターナショナルギフトショー春2020で商談成立が1件は少ない。販路拡大には実績が必要だと考える。</p>		
13	斎藤委員	<p>・人材育成にはワクワク感を得られることを長く続けていく事が大事だと考える。</p> <p>・ワクワク感を持った人材は人財である。この人達がたくさん活躍できる場を提供し続けなければならないと考える。</p>	<p>・本事業においてはこれまでも様々な人材育成事業を実施してきましたが、育成された人材が今後も活躍できるよう、いただいたご意見を踏まえ、今後の事業や各事業の自動化支援に取り組んでいきます。</p>		
14	外崎委員	<p>・様々なコンテンツ開発や学びの機会、情報に触れあう機会を作れており、実績値も目標には至っていないが十分と言える実績値であることから有効であったと思われる。今後も継続しながら、様々なコンテンツや学びの機会、様々な情報に触れあえる機会を増やしてほしい。</p>		<p>・目標値の一つである「観光入込客数」は、目標を達成できなかった状況ですが、本事業により作り上げた新たなコンテンツや学びの機会などを活用し、地域の活性化と更なる魅力の発信に力を入れていきます。</p>	
15	崎野委員	<p>・全国に弘前の情報が発信されている。</p>			<p>・いただいたご意見も踏まえ、引き続き取り組んでいきます。</p>
16	鈴木委員	<p>・「弘前ポスター展事業」及び「津軽塗デザインプロジェクト事業」への予算配分などに問題はないのか？取組が弱かったのではないか。</p>	<p>・弘前ポスター展のワークショップでは、学生3名に対し、クリエイター2名がサポートする体制で実施し、参加した計16名の学生に対し、トップクリエイター6名・地元クリエイター7名を加えた計13名が4日間関わっており、一流の指導の下、デザインや企画、写真の撮り方までを学び体験させる内容となっています。</p> <p>・本事業により、学生が地元商店街の魅力を発見し郷土愛を深められたことや、トップクリエイターとの交流により地元クリエイターの育成が図られたことなど、様々な形で効果が得られたものと考えています。</p> <p>・また、津軽塗デザインプロジェクト事業では、県内唯一の国指定の伝統的工芸品に指定されている津軽塗の振興を図るために行っており、本事業の目標値となっている商品開発数は達成されているものの、津軽塗の生産額向上のため、継続して事業を実施していきたいと考えています。</p> <p>・いただいたご意見のとおり、いずれの事業についても、事業費の大きな事業となっていますので、成果をしっかりと検証し、今後につなげていきます。</p>		

No.	事業名	委員名	委員意見	回答
17	3.地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業	大西委員	<p>・ブランド開発 ギフトショーへの出展は商談に結び付けるために重要な取り組みであるので、設営するブースやディスプレイ、販促パンフなどにもっと力をいれて、津軽のブランドを売り込んでほしい。ギフトショーには毎回参加しているが、弘前市のブースは目立たない。広い会場で、全国の自治体が血道をあげて目立とう、売ろうとしている時におとなしすぎる。</p> <p>・弘前ポスター展 決算額に驚いた。国内外で活躍するトップクリエイターのクリエイションを間近で体感する機会は貴重だと思う。人材育成の観点から、高校生を対象としている事業を通して、弘前のどのような人材をどのような目的で育成したいのか。予算に見合うポスター制作ができたのかどうか疑問である。今年度に期待する。</p>	<p>・ギフトショーへの出展については、青森県と連携し、より効果的に販路開拓・拡大ができるよう取り組んでおり、今後も成約につながるよう売り込みも工夫します。</p> <p>・弘前ポスター展については、街の活力を産み出せる人材を地元から輩出することが必要だと考え、将来自分が進む道を具体的に考える高校生を対象に実施しました。</p> <p>・「今後、この経験を活かせると思い参加した」、「クリエイターを目指す学生のためにもなる」といった意見もあり、学校生活だけでは体験することのできない、一流に触れる場で学び、体感することで未来を担う人材を育てることを目的の一つとしています。</p> <p>・作成されたポスターは、メディアへの掲載・青森県立美術館や大阪の銭湯への掲出につながったほか、今年の春には、中心市街地の情報を発信するホームページ「まちなかナビゲーター」のトップページへの掲載、弘南鉄道中央弘前駅前への掲出も予定しており、活用に拡がりを見せています。</p> <p>・今年度は予算の削減と地元クリエイターが関わる部分を増やした形で実施し、将来デザイン関係の仕事に就きたいという学生が参加するなど、参加学生側にも積極的な動きがみられています。事業費の大きな事業ですので、一定のレベルを維持しつつ、経費を抑えて来年度以降も実施できないか検討します。</p>
18		外崎委員	<p>・「先端医療研究開発プロフェッショナル人材育成事業寄付金」について、当地域の医療体制の維持・強化に貢献するところがあるが、この交付金を活用して先端医療を学んだ弘大医学部の学生が弘前に残るかどうかは、予想できないのではないかと。「地方創生に効果があった」との評価だが、どういう理由でこの評価としたのか。</p>	<p>・当該寄付金のほかにも各種事業を実施しており、それらも含め事業全体を総合的に評価し「地方創生に効果があった」としたものです。また、学生が地域に定着するかどうかについては、寄付金を交付する当市の目的や狙いがしっかり理解された上で、弘前大学において学生の選考が行われ、海外派遣等されているものと考えています。</p>
19		鈴木委員	<p>・市民に認知されているものとそうでないものがあり、効果なども発信してほしい。</p>	<p>・具体的な情報発信の手法について検討していきます。</p>
20		成田委員	<p>・全体的にこの事業の交付実績の数が少なく、KPIを見ても目標に達していないと思われるが、事業効果で「地方創生に効果があった」となっているのはなぜか。</p>	<p>・市内の医療機関のうち、先端的な医療を提供できる医療機関は限られているため、交付件数は多くありませんが、市内医療機関において、先端的な医療体制が着実に整備されていると認識しているほか、ライフ関連産業分野における事業者の取組が進んだことから、「地方創生に効果があった」としたものです。</p> <p>・KPIについて、現在は3年度にわたる事業期間の中間地点であり、最終年度には目標値を達成できるよう、引き続き取組を進めていきます。</p>
21	4.寝たきりゼロによる健康的で豊かな生活を実践するライフ・イノベーション加速化事業	斎藤委員	<p>・先端医療促進は、市民の健康寿命の延伸の項目でよいのか。</p> <p>・健康経営に関する認証を取得した企業数が目標を大きく上回ったことはすばらしい。どのような項目をクリアすれば認証されるかはわからないが、今後、どんどん増えていく事を期待する。</p>	<p>・本事業では、「市民の健康寿命の延伸」と「ライフ関連産業の振興」を目的としており、先端医療促進は「市民の健康寿命の延伸」に向けた取組として整理しております。</p>
22		外崎委員	<p>・実績値は低いが、取組内容としては長期的な取組が必要であり、今後の将来性・未来への投資として考えると有効であると考えられる。</p>	<p>・いただいたご意見も踏まえ、今後取り組んでいきます。</p>
23		崎野委員	<p>・医療強化に貢献。若手の医療人材が弘前で活躍することを期待。</p>	
24		淀野委員	<p>・成果を求めない漫然たる寄付行為は良くない。海外の学会etcの参加は決して難しくない。</p>	<p>・弘前大学に対して平成29年度から寄附しており、過去に寄附金を活用して海外派遣された学部生が今年度、初めて卒業を迎えることから、地元定着の動向も含め寄附の成果の把握に努めていきます。</p>
25		今村委員	<p>・健康寿命延伸のためには、先端医療促進だけでは不十分で、予防医学にも力を入れるべきである。医療と予防とでの予算配分には大きな開きがあり(17,633,692円と110,000円)、これだけでは平均寿命は延びても健康寿命が延びるとは限らないと考える。地味な分野と捉えられがちであるが、予防医学に力を入れることのできる医師の育成やその分野の活動に目を向けてほしい。</p>	<p>・ご指摘のとおり、本事業においては「医療」と「予防」の予算配分に差がありますが、本事業以外にも、当市では弘前大学と連携した「ひろさき健康増進リーダー」や「弘前大学COI」の取組を通して、「予防」に取り組んでおります。</p>

No.	事業名	委員名	委員意見	回答
26		森委員	・事業で生まれた成果を、新計画で活用し、効果が発揮されることを期待したい。	・本事業で構築した剪定技術の学習支援システムについて、令和2年度から4年度までの新たな計画期間の中で、実際の講習会等における試験利用を通じた改善や運用体系の構築など、地域実装に向けて取り組んでいきます。このほか、地域外からの人材確保の仕組や、多くを占める家族経営体が効率的に生産活動を続けられる手法の構築など、これまでの取組を土台とし更に発展させながら、日本一のりんご産地の維持に向けて引き続き取り組んでいきます。
27	5.ひろさきりんご産業イノベーション推進事業	外崎委員	・りんご産業については、担い手を増やす為にも様々な人が就農できるような環境整備・システム開発が必要であり、就農者の門戸が広がり継承者を増やしていける可能性があること、一定数の実績値があることから有効と判断した。	・令和2年度から4年度までの新たな計画の中では、剪定技術の学習支援システムの実装に向けた取組など熟練を要する技術の継承を補完するシステム構築や、スマート農業技術の普及展開に向けた取組とともに、非農家出身者等の新規参入による就農の促進と地域定着を図る「農業里親研修事業」に新たに取り組むなど、りんご産業への参入ハードルの低減に向けた取組を強化していくこととしています。これらの取組も含め、ご意見をいただいたとおり、引き続きりんご産業を含め本市農業の担い手となる新規人材の確保に取り組めます。
28		崎野委員	・りんご産業。日本一のブランド生産者の減少。効果的な手法、安定生産。	・いただいたご意見も踏まえ、引き続き取り組んでいきます。
29		鈴木委員	・費用対効果として、有効であった。	・いただいたご意見も踏まえ、引き続き取り組んでいきます。
30		崎野委員	・有効。コラボ限定注目。	
31	6.弘前さくらまつりにぎわい創出事業	斎藤委員	・「さくらの鉢植え」は良かったと思う。 ・「次年度の公園入場券」は、今年は閉園だったので、どれくらい使用されたかわからないが、この取組も良かったと思う。 ・今後、早咲きの年は弘前公園以外に遅咲きの桜を植樹して対応していくのはどうか(例えば堀越城跡など)。	・さくらの鉢植えについては、さくらまつりのにぎわい創出につなげるため来年度以降も継続して展示を行います。 ・また、弘前公園以外への遅咲きの桜の植樹・見どころの創出については、いただいたご意見を今後の事業の参考とさせていただきます。
32		外崎委員	・取組としては評価できるが、桜が散ってしまう期間でも楽しめるようにする姿勢は良いと考える。ただ外堀の桜色のライトアップなど「本物の桜」でなくても楽しめる取組はあるため、「本物の桜」にこだわりすぎなくても良いのではと思う。	・桜の咲く時期は「本物の桜」で楽しんでいただくとともに、「本物の桜」以外でも工夫をしながらにぎわいの創出が図られるよう、いただいたご意見を今後の事業の参考とさせていただきます。
33		淀野委員	・鉢植え効果がどれくらいか判断できない。将来に向けて城内のさくらの種類をバラエティーに富むように計画するとよい。	・現在、ソメイヨシノの見頃が終わると弘前公園に桜が咲いていない印象を持たれているため、遅咲き品種の鉢植えによる展示をPRすることにより、ソメイヨシノの見頃が終わった後の集客につながるものと考えています。 ・いただいたご意見を踏まえ、これからさくらの種類を増やし、様々なさくらを楽しんでいただけるように努めます。
34	全体	大西委員	・1～6の事業すべての評価(事業効果)において「地方創生に効果があった」となっている。評価には「非常に効果的であった」「相当効果があった」「効果があった」「効果がなかった」の4段階があり、「効果があった」は消極的肯定の段階かと思う。たとえば、「非常に効果的であった」という評価になるには、今後どのような具体的改善策を行う予定であるのかということや、「相当効果があった」の段階になるためにはこういうポイントが欠けていたなど具体的な反省点はあるのか。当然、「非常に効果的であった」となりうる取組をご用意していて、しかしながら、市場においてはニーズがなかったり、時期(タイミング)が合わなかったりということや、今年のように予測のできない事態が起こってしまったということはあると思う。到達目標は適切であるのかが、まず疑問である。	・事業効果については、主にKPIの実績をもとに「非常に効果的であった」「相当効果があった」「効果があった」「効果がなかった」の4段階で行っています。KPIの目標値については、地方創生推進交付金事業の国への申請時に設定しており、変更については原則的に認められておりません。申請時に高い目標を設定したことから、「効果があった」にとどまっている事業が多いという現状にあります。 ・しかしながら、各事業においてより高い成果が得られるよう、事業の改善を図りながら、引き続き取組を進めていきます。

地方創生関係交付金事業に関する事業効果評価(案)

資料 2

No.	事業名	委員名	事業効果評価	意見	外部組織としての 事業効果評価(案) (国への報告案)
1	1.弘前版生涯活躍のまち推進事業	森委員	有効であった	—	<p>地方創生 (最終目標値の達成等)に、</p> <p style="text-align: center;">有効であった</p> <p>有効とはいえない</p>
2		鈴木委員	有効であった	—	
3		鴻野委員	有効であった	—	
4		淀野委員	有効であった	—	
5		成田委員	有効であった	—	
6		崎野委員	有効であった	—	
7		外崎委員	有効であった	・一定数の実績があり有効であったと考えられる。現状一部の法人に委託となっているため、今後様々な法人が協力を申し出てくれるように働きかけていってほしい。また市外の人を呼び込むだけでなく、市内にいる高齢者の方々にも元気な状態を維持できている方たちにも商品券をプレゼントするなどの取組などを考えてほしい。市外の人へのみ手厚く支援を提供する事は不平等に感じる。	
8		斎藤委員	有効とはいえない	・審議会での発言もありましたが、専門職の移住を考えるのは良いと考える。 ・中高年の移住相談者が増加傾向にあるという実績をぜひ活かし、移住に結び付けてほしい。相談者が移住に踏み切れないところを分析し、それをクリアするにはどうしたらいいか解決することが大事だと思う。	
9		大西委員	有効とはいえない	・人口減少はさらに進んでいく。『「弘前版」生涯活躍のまち』となるために弘前に沿うようカスタマイズ(現地適応)した事業になっているのか。地域貢献モデル構築、健康増資モデル構築は地域内のことなので、参加しやすい仕組み作りが進んでいるのだと思われるが、移住については、事業企画者が移住者の弘前での生活をイメージできているのか。もしくは、お試し居住を受け入れる用意は万全であるとして、ニーズやターゲットとマッチしているのか。	

No.	事業名	委員名	事業効果評価	意見	外部組織としての 事業効果評価(案) (国への報告案)
10	2.都市と地方をつなぐ就労支援 カレッジ事業	鈴木委員	有効であった	—	<p>地方創生 (最終目標値 の達成等)に、</p> <p style="text-align: center;">有効であった</p> <p>・</p> <p>有効とはいえない</p>
11		鴻野委員	有効であった	—	
12		崎野委員	有効であった	—	
13		成田委員	有効であった	—	
14		森委員	有効であった	・「就農体験者の受け入れ」に関しては補助労働力の確保にとどまっており、地方創生に効果があったとは言えないが、「ローカルベンチャー育成支援」では、外部人材による新たなビジネスモデルが創出されており、地域における新しい芽が育ってきており、地域に刺激を与えつつあると考えるので、事業全体としての効果はあったと考えている。	
15		斎藤委員	有効であった	・就農体験を長期及び移住等につながる見込みがある者を掘り起こして、研修を実施したことは良いと思う。技術習得や作業練度の向上が可能になったということは、次のステップアップは移住して独立に結び付くようにハード面の支援が必要。	
16		淀野委員	有効とはいえない	・費用対効果が見えにくい割に、予算が高額のため、「有効とはいえない」と評価したもの。	
17		外崎委員	有効とはいえない	・6000万円と高額な予算を配分している割には実績値は低く、②のローカルベンチャーも今後の可能性(将来への投資)という観点では評価はできるが、現状での実績が低く有効と考えにくい。①に関しても移住実績がなく受け入れ人数66人に対して1500万円の予算は「お金をかけすぎ」と言わざるを得ない。③-1、③-2で一定数の実績があるため、ある程度の効果はあった部分もあるが①と②も含めて全体として考えると有効とは言えない。※また以前の審議会でも予算が高いとの指摘があったものの、具体的な内訳の確認や委託費が適正かどうかのチェックについて今回の審議で資料提示がないため、有効と判断する要素が足りないと判断した。	
18		大西委員	—	・いずれも必要な事業であると思うが、めばしい効果が見当たらず、今後の方向性についても具体的な方策が示されているとは言えないと思う。 ・②ローカルベンチャー育成支援については、スピード感をもって事業化を進めていってもよいのではないかと思う。大きなお金が動いているので、成果を期待する。	

No.	事業名	委員名	事業効果評価	意見	外部組織としての 事業効果評価(案) (国への報告案)
19	3.地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業	鴻野委員	有効であった	—	<p>地方創生 (最終目標値の達成等)に、</p> <p style="text-align: center;">有効であった</p> <p>有効とはいえない</p>
20		淀野委員	有効であった	—	
21		森委員	有効であった	・クリエイティブコンテンツ事業は、地域にとどまらず、世界を巻き込んだ取り組みに発展しており、大きく効果があったといえる。一方で、そのほかの事業の多くが、発信にとどまっており、発信した後の展開が考えられていないという点では事業としては不十分であったと考えられる。弘前の魅力を認知してもらった後に、弘前に足を運んでもらったり、地域産品を購入してもらって初めて成果があったと考えるので、弘前に来てもらえる取り組みや地域産品を購入してもらおうような仕掛けも組み合わせると事業効果をもっと出てくると考えられる。	
22		成田委員	有効であった	・津軽塗デザインプロジェクトについて、東京インターナショナルギフトショー春2020で商談成立が1件は少ない。販路拡大には実績が必要だと考える。	
23		斎藤委員	有効であった	・人材育成にはワクワク感を得られることを長く続けていく事が大事だと考える。 ・ワクワク感を持った人材は人財である。この人達がたくさん活躍できる場を提供し続けなければならないと考える。	
24		外崎委員	有効であった	・様々なコンテンツ開発や学びの機会、情報に触れあう機会を作っており、実績値も目標には至っていないが十分と言える実績値であることから有効であったと思われる。今後も継続しながら、様々なコンテンツや学びの機会、様々な情報に触れあえる機会を増やして行ってほしい。	
25		崎野委員	有効であった	・全国に弘前の情報が発信されている。	
26	鈴木委員	有効とはいえない	・「弘前ポスター展事業」及び「津軽塗デザインプロジェクト事業」への予算配分などに問題はないのか？取組が弱かったのではないのか。		
27	大西委員	—	<p>・ブランド開発 ギフトショーへの出展は商談に結び付けるために重要な取組であるので、設営するブースやディスプレイ、販促パンフなどにもっと力をいれて、津軽のブランドを売り込んでほしい。ギフトショーには毎回参加しているが、弘前市のブースは目立たない。広い会場で、全国の自治体が血道をあげて目立とう、売ろうとしている時におとなしすぎる。</p> <p>・弘前ポスター展 決算額に驚いた。国内外で活躍するトップクリエイターのクリエイションを間近で体感する機会は貴重だと思う。人材育成の観点から、高校生を対象としている事業を通して、弘前のどのような人材をどのような目的で育成したいのか。予算に見合うポスター制作ができたのかどうか疑問である。今年度に期待する。</p>		

No.	事業名	委員名	事業効果評価	意見	外部組織としての 事業効果評価(案) (国への報告案)
28	4.寝たきりゼロ による健康的で 豊かな生活を実 践するライフ・イ ノベーション加速 化事業	森委員	有効であった	—	<p>地方創生 (最終目標値 の達成等)に、</p> <p style="text-align: center;">有効であ った</p> <p>・</p> <p>有効とはい えない</p>
29		鴻野委員	有効であった	—	
30		鈴木委員	有効であった	・市民に認知されているものとそうでないものがあり、効果なども発信してほしい。	
31		成田委員	有効であった	・全体的にこの事業の交付実績の数が少なく、KPIを見ても目標に達していないと思われるが、事業効果で「地方創生に効果があった」となっているのはなぜか。	
32		斎藤委員	有効であった	・先端医療促進派、市民の健康寿命の延伸の項目でよいのか。 ・健康経営に関する認証を取得した企業数が目標を大きく上回ったことはすばらしい。どのような項目をクリアすれば認証されるかはわからないが、今後、どんどん増えていく事を期待する。	
33		外崎委員	有効であった	・実績値は低いですが、取組内容としては長期的な取組が必要であり、今後の将来性・未来への投資として考えると有効であると考えられる。	
34		崎野委員	有効であった	・医療強化に貢献。若手の医療人材が弘前で活躍することを期待。	
35		淀野委員	有効とはいえない	・成果を求めない漫然たる寄付行為は良くない。海外の学会etcの参加は決して難しくない。	
36		今村委員	—	・健康寿命延伸のためには、先端医療促進だけでは不十分で、予防医学にも力を入れるべきである。医療と予防との予算配分には大きな開きがあり(17,633,692円と110,000円)、これだけでは平均寿命は延びても健康寿命が延びるとは限らないと考える。地味な分野と捉えられがちであるが、予防医学に力を入れることのできる医師の育成やその分野の活動に目を向けてほしい。	

No.	事業名	委員名	事業効果評価	意見	外部組織としての 事業効果評価(案) (国への報告案)
37	5.ひろさきりんご 産業イノベーション推進事業	鈴木委員	有効であった	—	<p>地方創生 (最終目標値 の達成等)に、</p> <p style="text-align: center;">有効で あった</p> <p>・</p> <p>有効とはいえない</p>
38		鴻野委員	有効であった	—	
39		淀野委員	有効であった	—	
40		成田委員	有効であった	—	
41		斎藤委員	有効であった	—	
42		森委員	有効であった	・事業で生まれた成果を、新計画で活用し、効果が発揮されることを期待したい。	
43		外崎委員	有効であった	・りんご産業については、担い手を増やす為にも様々な人が就農できるような環境整備・システム開発が必要であり、就農者の門戸が広がり継承者を増やしていける可能性があることと、一定数の実績値があることから有効と判断した。	
44		崎野委員	有効であった	・りんご産業。日本一のブランド生産者の減少。効果的な手法、安定生産。	

No.	事業名	委員名	事業効果評価	意見	外部組織としての 事業効果評価(案) (国への報告案)
45	6.弘前さくらまつりにぎわい創出事業	森委員	有効であった	—	<p>地方創生 (最終目標値 の達成等)に、</p> <p style="text-align: center;">有効であった</p> <p style="text-align: center;">・</p> <p>有効とはいえない</p>
46		鴻野委員	有効であった	—	
47		成田委員	有効であった	—	
48		鈴木委員	有効であった	・費用対効果として、有効であった。	
49		崎野委員	有効であった	・有効。コラボ限定注目。	
50		斎藤委員	有効であった	<ul style="list-style-type: none"> ・「さくらの鉢植え」は良かったと思う。 ・「次年度の公園入場券」は、今年は閉園だったので、どれくらい使用されたかわからないが、この取組も良かったと思う。 ・今後、早咲きの年は弘前公園以外に遅咲きの桜を植樹して対応していくのはどうか(例えば堀越城跡など)。 	
51		外崎委員	有効であった	<ul style="list-style-type: none"> ・取組としては評価でき、桜が散ってしまう期間でも楽しめるようにする姿勢は良いと考える。ただ外堀の桜色のライトアップなど「本物の桜」でなくても楽しめる取組はあるため、「本物の桜」にこだわりすぎなくても良いのではと思う。 	
52		淀野委員	有効とはいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・鉢植え効果がどれくらいか判断できない。将来に向けて城内のさくらの種類をバラエティーに富むように計画するとよい。 	